

■井上頼國 明治年間を代表する最も著名な国学者として、その各方面における活躍には括目すべきものがあった。

いのうえよりくに

蚕社の獄・1839＝ 江戸神田松下町で、天文易暦風水の学に秀で楠流の兵学に長じ、幕府の高家横瀬貞篤に仕え、和漢方の医者としても知られた井上頼正の長子に生まれる。母喜知子も歌名八十子を名乗るほど和歌をよくした。

阿部正弘首座1845＝ 4歳：

天保改革終・1844＝ 5歳：手習師匠山本伊兵衛に入門、

ついで、高崎藩士犬塚義章について漢籍の素読を受けるうち、学問に才能を示し、

・・・1848＝ 9歳：

国定忠治磔・1850＝11歳：はやくも旗本の家に入り出て朱子学を講じ、また付近の児童を集めて素読を授けたという。

ペリー来航・1853＝14歳：

松下村塾・・・1856＝17歳：相川景見に就いて歌学を修める。

蕃書調所・・・1857＝18歳：

その他柔術・撃剣・鎗術・馬術・笛・碁・将棋など、あらゆる武芸・学芸を学ぶ。

桜田門外変・1860＝21歳：

遣欧使節・・・1861＝22歳：平田鉄胤に入門。国学を専修し、

禁門の変・・・1864＝25歳：権田直助にも入門して、日本古医道を研究する。

薩長同盟・・・1866＝27歳：

大政奉還・・・1867＝28歳：師の権田直助が国事に奔走したため、師から医道教授の代理を依頼され、また門下生の監督指導にかかわる一切の事を委任されたが、

明治維新・・・1868＝29歳：維新となるや、

戊辰戦争終・1869＝30歳：*大学中助教に任じられ、皇漢医道御用掛を仰せ付けられる。

廃藩置県・・・1871＝32歳：皇学の家塾(神習舎)を開いて後進の指導に力を注ぎ、

学問のすすめ1872＝33歳：教部省9等出仕、

明治6年政変 1873＝34歳：大講義、

初の民間工場1875＝36歳：大神神社少宮司、

西南戦争・・・1877＝38歳：修史館雇、宮内省御系譜掛、

明治14年政変1881＝42歳：

新体詩抄・・・1882＝43歳：松野勇雄以下5名とともに発起人となり、*皇典講究所を設立し同所の文学部教授となる。

岩倉具視没・1883＝44歳：*神職界にもその方面の学識者として重きを置き、神宮教管長田中頼庸より宮内省を經由して矢野玄道とともに国史校訂を依頼される。

秩父事件・・・1884＝45歳：

初の対等条約1888＝49歳：臨時全国宝物取調局書記兼鑑査掛、

帝国憲法発布1889＝50歳：

郡司千島探検1893＝54歳：

日清戦争始・1894＝55歳：図書寮御系譜課長、

子規句歌革新1898＝59歳：大槻如電と共編で、「新撰東西年表」、

Bushidou・・・1899＝60歳：井上頼文・吉岡頼教編で、「己亥叢説」、

ビアノ国産化・1900＝61歳：華族女学校教授、

教科書疑獄・1902＝63歳：全国神職会顧問に就任したりした。

日露戦争終・1905＝66歳：東京帝国大学文学博士となり、

満鉄発足・・・1906＝67歳：兼任学習院教授や、

韓国反日暴動1907＝68歳：高山昇・菟田茂丸と共編で、「難訓辞典」、

アヲキ創刊・1908＝69歳：図書寮編集課長などを歴任し、

伊藤博文暗殺1909＝70歳：中垣孝雄ほかと共著で、「教育勅語模範講話」、「古事記考」、

大逆事件判決1911＝72歳：「国漢新辞典」「現代文章宝典」、本居豊穎・上田万年と「校定古事記」など出版し、

明治天皇没・1912＝73歳：六国史校訂材料取調主任に就任したが、

第一次大戦始1914＝75歳：腎臓炎と尿毒症のため、没した。

特別な学力を有し、膨大な蔵書は無窮会の神習文庫となった。「都々古別神社考証」「越州考」「皇統略記」「古史対照年表」「長慶天皇御即位論」「己亥叢説」「後宮制度沿革考」、「薬品職名」(共著)など。